

臨床腫瘍学総論 (Clinical Oncology)

【責任者/担当者】

〔呼吸器・血液内科学〕 木島 貴志 主任教授

【担当者】

〔呼吸器・血液内科学〕 栗林 康造 教授
〔呼吸器・血液内科学〕 大搦 泰一郎 講師
〔呼吸器・血液内科学〕 池亀 和博 講師
〔消化器外科学(上部消化管外科)〕 篠原 尚 主任教授
〔消化器外科学(下部消化管外科)〕 池田 正孝 主任教授
〔乳腺・内分泌外科学〕 三好 康雄 教授
〔麻酔科学・疼痛制御学〕 宮脇 弘樹 助教
〔精神科神経科学〕 吉村 知穂 助教
〔産科婦人科学〕 鐺本 浩志 教授
〔放射線医学〕 富士原 将之 講師
〔病理学 分子病理部門〕 辻村 亨 主任教授
〔病理学 病理診断部門〕 廣田 誠一 主任教授
〔公衆衛生学〕 島 正之 主任教授
〔遺 伝 学〕 中野 芳朗 教授
〔産 婦 人 科 学〕 澤井 英明 教授
〔が ん セ ン タ ー〕 西村 裕美子 看護師長
〔外 来 化 学 療 法 室〕 山下 典子 薬剤部課長

【目的】

実地臨床で必要な腫瘍学の基本、がんの発生メカニズムから生物学的特性、がんの疫学や薬物療法の基礎、がん治療に関わる心理的、社会的問題、新しい診断法や治療法の開発を理解する。そして、これらの知識が実際の臨床にどう結び付くのか、考えることを身に付ける。

【科目キーワード】

「臨床腫瘍学(Clinical Oncology)」「がんの発生メカニズム(Carcinogenesis)」「がんのバイオロジー(Cancer Biology)」「がんの疫学(Cancer Epidemiology)」「がんの薬物療法(Cancer Pharmacotherapy)」「精神腫瘍学(Psycho-Oncology)」

【到達目標(アウトカム)】

- 自立性の増殖と、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
- がんの原因や遺伝子変化を説明できる。
- がんの病理診断、分類、ステージを概説できる。
- 用語(異形成、上皮内癌、進行がん、早期がん、異型性、多形性等)を説明できる。
- 5大がんの概要について説明できる。

- がんの画像所見や診断を説明できる。
- がんの検査所見を説明できる。
- がんの転移を説明できる。
- がんの集学的治療を概説できる。
- 化学療法の薬物動態と薬力学的解析について述べるができる。
- 化学療法の種類と適応を概説できる。
- がん治療の有害事象について述べるができる。
- 薬物療法における支持療法を概説できる。
- 腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。
- 腫瘍における緩和ケアを概説できる。
- 腫瘍の診療における生命倫理(バイオエシックス)を概説できる。
- 腫瘍性疾患を持つ患者の置かれている状況を深く認識できる。
- サイコオンコロジー(精神腫瘍学)の歴史と概念を理解し、癌患者の QOL 向上を目指した全人的医療を実践することができる。
- トランスレーショナルリサーチについて述べるができる。
- ゲノム医療・遺伝子パネル検査の概要について述べるができる。
- 遺伝カウンセリングの概要と必要性について述べるができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- ・人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる。
- ・人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。
- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校への帰属意識を有している。
- ・患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる。
- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。
- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。

- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

この授業では、臨床腫瘍学全般の概要を理解できるように企画されている。がんの発生から診断、治療に至るまで幅広い知識の習得を目的とした総論である。さらにはがんの治療に伴う、社会的、心理的 patient 支援も含まれている。各領域の専門家による、18コマの講義である。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

特になし

(講義を聞いて理解できなかった部分、興味を持った部分に関してはさらに各自が自修する)

【成績の評価方法・基準】

筆記試験と出席および態度で評価。筆記試験 80%、出席・態度 20%。

【学生への助言】

復習をして、興味のある点は、自己学習してください。

【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う(特に低正答率問題)

【オフィスアワー】

曜日:月～金、時間帯:10時～16時

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

「新臨床腫瘍学(改訂第6版)」日本臨床腫瘍学会 編(南江堂)2021年

「Abeloff's Clinical Oncology (6th ed)」John E. Niederhuber、他 著 (ELSEVIER)2020年

「がん研究のいま」(全4巻)鶴尾隆、谷口維紹 編(東京大学出版会)2006年

「がんの生物学(第2版)」Robert A. Weinberg 著 武藤誠、青木正博 訳(南江堂)2017年

「がんの統計」国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/brochure/backnumber/index.html

【連絡先】

2号館5階 呼吸器・血液内科学(呼吸器内科医局)